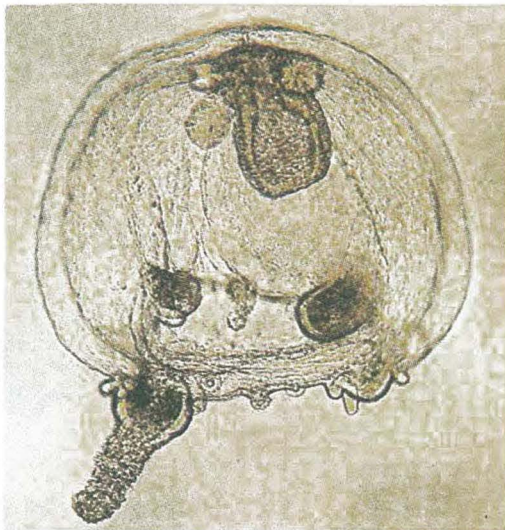


コモチクラゲ



△
子(分身)を持つコモチクラゲ

久保田 信

34



コモチクラゲは、その名の通り子どものクラゲを持つヒドロクラゲだ。画像の個体も傘の真ん中の胃袋の周りに、小さな子どもを3匹付けている。まだどの子どもも出来始めなので、クラゲの構造は何

も見えないほど小さい。しかし、1週間もすれば一人前になって、親クラゲから次々と巣立っていくはずだ。
コモチクラゲは若い時にほとんど分身の術(クローン)で若いクラゲをつくって増やすが、生殖巣が成熟すると、もう子どもはつくらなくなる。写真の親クラゲは傘径が0・5センチくらいしかない。傘の縁に触手がまだ2本しかないので、ごく若いことが分かる。成長すると4本になるからだ。触手の付け根の膨らんだ所には、その両側に小さな細い突起がある。これは糸状体

と言ってよく伸びる。しかし、プ

ランクtonネットでは採集したので切れている。糸状体の先端には普段見られない刺胞を含むので、これは特殊な装置だ。餌を捕るためでなく、なんらかの機能があるのだが、まだはっきりしない。この糸状体は傘縁以外にも生えているので、数は触手よりずっと多い。

傘縁には感覚器がある。丸い玉のようなものがそつで、画像では2個がはっきり見えている。それらの中には、結晶の石が1個ずつ入っていて、体のバランスを取っている。全体では規則正しく配列されているので、2個の4倍の8個ある。

このクラゲで非常に面白いことが分かった。フランスの研究者が飼育により生活史をほぼ解明したのだが、ポリプは海底暮らしをせずに、なんとクラゲの無性生殖によってクラゲ自体に出芽してできるのだ。受精によらないので、これは若返りの一種かもしれない。今後注目したい。

(京都大学准教授)